

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

資料 1	カリキュラムツリー	2
資料 2	卒業認定・学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針と学修の 到達目標	3
資料 3	履修モデル	4
資料 4	中長期留学ガイドブック	6
資料 5	甲南大学専任教員授業担当時間数等に関する規程	7
資料 6	甲南大学専任教員定年規程	10
資料 7	甲南大学理工学部特命教授規程	11
資料 8	キャリア創生共通科目	12
資料 9	キャリア支援プログラム	18

理工学部 環境・エネルギー工学科 カリキュラムツリー

到達目標		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A-1	人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、環境・エネルギー工学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	○基礎共通科目 (導入共通/学際融合等) ○基礎共通科目 (人文・自然・社会) ◎スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ ◎College English Reading/Writing ◎College English Listening/Speaking ○College English Topics I ○College English Project I ○基礎第2外国語Ⅰ (ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語) ○基礎第2外国語Ⅱ (ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語)	○基礎共通科目 (導入共通/学際融合等) ○基礎共通科目 (人文・自然・社会) ◎スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ ◎College English Reading/Writing ◎College English Listening/Speaking ○College English Topics II ○College English Project II ○基礎第2外国語Ⅰ (ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語) ○基礎第2外国語Ⅱ (ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語)	○基礎共通科目 (人文・自然・社会) ○基礎共通科目 (人文・自然・社会)	○基礎共通科目 (人文・自然・社会) ○基礎共通科目 (人文・自然・社会)	◎研究における安全と倫理	◎工学英語	▽知的財産論	
A-2	環境・エネルギー工学の基礎及び専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って目標を実現することができる。	◎環境・エネルギー工学入門	○環境・エネルギー工学キャリアデザイン					◎環境・エネルギー工学卒業研究 ▽環境・エネルギー工学特別演習3	
B	自然科学に関する幅広い教養と基礎学力を修得するとともに、その原理から基本的な物理・化学現象を考えることができる。	○有機化学基礎 ○化学1 ○基礎科学演習1 ○力学基礎 ○地球科学1 ○工学のための数学1 ○工学のための数学演習1 ▽生物学通論Ⅰ	○有機化学基礎 ○化学2 ○基礎科学演習2 ○振動・波動 ○地球科学2 ○工学のための数学2 ○工学のための数学演習2 ▽生物学通論Ⅱ	○電磁気学基礎 ○天文学入門 ▽地学実験 ▽基礎生物学実験					
C	化学、物理学ならびに情報科学に関する知識を修得し、環境・エネルギー工学へと適切に応用することができる。	▽IT基礎	▽IT基礎 ▽IT応用	○無機化学A ○有機化学A ○物理化学A ○分析化学A ○熱力学基礎 ○工学のための応用数学1 ○工学のためのIT	○無機化学B ○有機化学B ○物理化学B ○物理化学B ○電磁気学Ⅰ ○工学のための応用数学2	○高分子合成化学 ○量子化学 ▽反応速度論 ○電磁気学Ⅱ	▽合成有機化学 ▽量子論		
D	環境・エネルギー工学の核をなす環境科学、材料科学ならびにエネルギー科学に関する専門知識を修得し、それらを問題の状況に応じて適切に使うことができる。		○環境科学 ○環境・エネルギー工学基礎	○固体科学入門 ▽コンピュータ材料科学	▽電気・電子工学 ▽材料電気化学 ○環境材料工学 ▽有機材料工学	▽電子材料工学 ▽エネルギー材料工学 ▽光材料工学	▽環境・エネルギー工学特別講義1 ▽環境・エネルギー工学特別講義2 ▽環境・エネルギー工学特別講義3		
E-1	化学、物理学ならびに環境・エネルギー工学に関する実験を行い、各分野の知識をもとに実験結果を解析することができる。	◎ラボラトリー・フィジックス	◎科学実験基礎	◎ラボラトリー・ケミストリー	◎環境・エネルギー工学実験1 ○環境・エネルギー工学実験2	○環境・エネルギー工学実験3	◎環境・エネルギー工学卒業研究		
E-2	環境・エネルギー工学に関する専門知識を修得するために、化学、物理学ならびに環境・エネルギー工学に関する実験を長期間にわたって行い、各分野の知識や議論をもとに実験結果を理論的に解析することができる。				▽環境・エネルギー工学特別演習1 ▽環境・エネルギー工学特別演習2	○環境・エネルギー工学実験3	◎環境・エネルギー工学卒業研究		

卒業認定・学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針と学修の到達目標との関係

学修の到達目標		対応する卒業認定・学位授与の方針の番号	対応する教育課程編成・実施の方針の番号
A-1	人文科学、自然科学、社会科学、国際言語文化学などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、環境・エネルギー工学と社会の関わりを考察することができ、自己の健康増進に関する技能を有し、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	DP1、DP2、DP3	(2)、(3)、(5)、(8)
A-2	環境・エネルギー工学の基礎及び専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って目標を実現することができる	DP1、DP2、DP5	(1)、(6)、(8)、(9)
B	自然科学に関する幅広い教養と基礎学力を修得するとともに、その原理から基本的な物理・化学現象を考えることができる。	DP3	(1)、(4)
C	化学、物理学ならびに情報科学に関する知識を修得し、環境・エネルギー工学へと適切に応用することができる。	DP4	(4)
D	環境・エネルギー工学の核をなす環境科学、材料科学ならびにエネルギー科学に関する専門知識を修得し、それらを問題の状況に応じて適切に使うことができる。	DP4、DP6	(4)、(6)
E-1	化学、物理学ならびに環境・エネルギー工学に関する実験を行い、各分野の知識をもとに実験結果を解析することができる。	DP5、DP6	(4)、(5)、(6)、(9)
E-2	環境・エネルギー工学に関する専門知識を修得するために、化学、物理学ならびに環境・エネルギー工学に関する実験を長期間にわたって行い、各分野の知識や議論をもとに実験結果を理論的に解析することができる。	DP4、DP5、DP6	(4)、(5)、(6)、(7)、(9)

理工学部 環境・エネルギー工学科 推奨履修モデル (大学院進学)

◎必修科目 ○選択必修科目 ▽選択科目

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全学共通科目	基礎共通科目 ○基礎共通科目(導入共通) ○基礎共通科目(人文・自然・社会)		基礎共通科目 ○基礎共通科目(学際融合等) ○基礎共通科目(人文・自然・社会)		基礎共通科目 ○基礎共通科目(人文・自然・社会) ○基礎共通科目(人文・自然・社会)			
	外国語科目 ◎College English ◎College English ○College English/基礎第2外国語		◎College English ◎College English ○College English/基礎第2外国語					
	保健体育科目 ◎スポーツ健康演習マネジメントI		◎スポーツ健康演習マネジメントII					
専門教育科目	必修科目 ◎環境・エネルギー工学入門		◎ラボラトリー・フィジクス		◎科学実験基礎		◎ラボラトリー・ケミストリー	
							◎環境・エネルギー工学実験1 ◎研究における安全と倫理	
							◎環境・エネルギー工学卒業研究 ◎工学英語	
	専門実験科目						○環境・エネルギー工学実験3	
	基礎科目 ○化学1 ○基礎科学演習1 ○力学基礎 ○地球科学1 ○工学のための数学1		○有機化学基礎 ○化学2 ○基礎科学演習2 ○振動・波動 ○地球科学2 ○工学のための数学2		○電磁気学基礎 ○天文学入門			
	専門基礎科目 ○工学のための数学演習1		○工学のための数学演習2		○工学のための応用数学1 ○無機化学A ○有機化学A ○物理化学A ○熱力学基礎 ○工学のためのIT		○無機化学B ○有機化学B ○高分子合成化学 ○物理化学B ○量子化学 ○電磁気学I	
	基幹専門科目				○環境・エネルギー工学キャリアデザイン ○環境科学		○固体科学入門 ○環境・エネルギー工学基礎 ○環境材料工学	
専門科目						▽反応速度論 ▽材料電気化学 ▽環境・エネルギー工学特別演習1 ▽有機材料工学 ▽合成有機化学		
関連科目		▽IT基礎						

	1年		2年		3年		4年		総数
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
全学共通科目									
基礎共通科目	4		4						16
外国語科目	2	2	2	2					8
保健体育科目	1		1						2
専門教育科目									
必修科目	1		3		4		2	12	26
専門実験科目						4			4
基礎科目	9		11		2	2			24
専門基礎科目	1		1		11	8	4		25
基幹専門科目					3	3		2	8
専門科目						4	6	3	13
関連科目	2								2
総単位数	22		24		21	20	12	12	128

理工学部 環境・エネルギー工学科 推奨履修モデル (一般)

◎必修科目 ○選択必修科目 ▽選択科目

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全学共通科目	基礎共通科目 ○基礎共通科目(導入共通) ○基礎共通科目(人文・自然・社会)		基礎共通科目 ○基礎共通科目(学際融合等) ○基礎共通科目(人文・自然・社会)		基礎共通科目 ○基礎共通科目(人文・自然・社会) ○基礎共通科目(人文・自然・社会)			
	外国語科目 ◎College English ◎College English ○College English/基礎第2外国語		◎College English ◎College English ○College English/基礎第2外国語					
	保健体育科目 ◎スポーツ健康演習マネジメントI		◎スポーツ健康演習マネジメントII					
専門教育科目	必修科目 ◎環境・エネルギー工学入門		◎ラボラトリー・フィジックス		◎科学実験基礎		◎ラボラトリー・ケミストリー	
							◎環境・エネルギー工学実験1 ◎研究における安全と倫理	
							◎環境・エネルギー工学卒業研究 ◎工学英語	
	専門実験科目						○環境・エネルギー工学実験2	
	基礎科目 ○化学1 ○基礎科学演習1 ○力学基礎 ○地球科学1 ○工学のための数学1		○有機化学基礎 ○化学2 ○基礎科学演習2 ○振動・波動 ○地球科学2 ○工学のための数学2		○電磁気学基礎 ○天文学入門			
	専門基礎科目 ○工学のための数学演習1		○工学のための数学演習2		○工学のための応用数学1 ○無機化学A ○有機化学A ○物理化学A ○熱力学基礎 ○工学のためのIT		○無機化学B ○有機化学B ○高分子合成化学 ○物理化学B ○量子化学 ○電磁気学I	
	基幹専門科目				○環境・エネルギー工学キャリアデザイン ○環境科学		○固体科学入門 ○環境・エネルギー工学基礎 ○環境材料工学	
専門科目						▽反応速度論 ▽材料電気化学 ▽有機材料工学 ▽合成有機化学 ▽量子論 ▽コンピュータ材料科学		
関連科目		▽IT基礎						

	1年		2年		3年		4年		総数		
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択			
全学共通科目											
基礎共通科目	4		4						16		
外国語科目	2	2	2	2					8		
保健体育科目	1		1						2		
専門教育科目											
必修科目	1		3		4		2	12	26		
専門実験科目						4			4		
基礎科目	9		11		2	2			24		
専門基礎科目	1		1		11	8	4		25		
基幹専門科目				3		3		2	8		
専門科目						4	8	2	14		
関連科目		2							2		
総単位数	22		24		21	20	12	14	4	12	129

単位換算について(協定校留学の場合)

海外派遣実績

中長期留学(半期~1年間)に参加しても、単位換算申請を行うことで4年間での卒業が可能^{*1}ですが、しっかりとルールを理解して計画を立てることが必要になります。詳細は出願者対象ガイダンスで説明します。以下の内容について質問がある場合は、国際交流センターまでお問い合わせください。
*1 一部対象外の学部・学科あり

中長期留学の過去5年間の実績を掲載しています。
□の箇所は、新型コロナウイルス感染症の影響により募集中止または留学派遣中止となったものです。国や地域の感染状況・感染防止策を十分に把握でき、学生への支援体制を取ることが可能な協定校等に限り、2021年度後期出発より留学プログラムを再開しています。

プログラム別

中長期留学		年間募集枠	2024	2023	2022	2021	2020
アメリカ	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	2	1	1	1		
	ニューヨーク州立大学バッファロー校	2	1	0	0		
	ウイバー州立大学	3	2	0	2	1	
	ピッツバーグ大学	1	1		1		
カナダ	ビクトリア大学	2	1	3	3	2	
	ケベック大学 モントリオール校	4	0	0	0		
オーストラリア	マードック大学	2	0	0	1		
	イーデス・コーワン大学	1	0	0	0		
イギリス	リーズ大学	2	4	1	1	2	
ドイツ	ライプツィヒ大学	2	0	0	0		
フランス	トゥール大学	2	0	0	0		
	リヨン第三大学	2	1	0	0		
韓国	漢陽大学	2	1	0	4		
	慶熙大学	2	0	0	1		
	東義大学	2	1	2	2	1	
中国	北京郵電大学	2	1	0	0		
	廈門大学	2	4	0	0		
台湾	東海大学	2	0	0	0		
	国立台北大学	2	0	0	0		
	国立聯合大学	2	0	0	0		
計		19	9	19	6	0	
交換留学	カナダ	ビクトリア大学	2	1	2	3	
	オーストラリア	イーデス・コーワン大学	1	1	0	1	
	イギリス	リーズ大学	5	0	0	0	
	ドイツ	ライプツィヒ大学	2	0	0	0	1
計		2	2	4	1	0	
奨励留学	アメリカ	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	10	0	0	1	
		セントラルワシントン大学	30	2	2	0	
		カリフォルニア大学サンディエゴ校	30	3	2	0	
		ハワイ大学リーワードコミュニティカレッジ ^{*2}	10			1	
		ティズニー・バレンシア国際カレッジプログラム	-	1	3		
	カナダ	ビクトリア大学	25	14	16	12	
		ブリティッシュコロンビア大学	30	5	13	17	1
		ヨーク大学	10	3	5	1	
	ケベック大学 トロワ・リヴィエール校	6	1	0	0		
	オーストラリア	ウーロンゴン大学	15	2			
イギリス	リーズ大学	20	8	5	4		
アイルランド	ダブリンシティ大学	30	5	3			
ドイツ	ライプツィヒ大学	6	2	0	0		
計		46	49	36	1	0	
奨励留学	アメリカ	ウイバー州立大学	若干	1	0	1	
	計	1	0	1			
プログラム別 計		69	61	60	8	2	
認定校留学	認定校留学 (JSAFプログラム)	SAP	-	0	0		
	FLAP+	-	0	0			
	FLAP	-	0	1		2	
学部等認定校留学		-	1	0			
計		1	1	0	0	2	

学部別

	文	理工	経済	法	経営	知能情報	マネジメント創造	グローバルイニシアチブ	グローバル教育
2024	4	0	4	0	1	0	10	0	
2023	0	0	0	0	1	0	1	0	
2022	19	1	5	3	6	2	10	0	
2021			1						
2020									
計	23	1	10	3	8	2	22	0	
2024	3	0	2	0	2	0	2	0	
2023	1	0	1	0	0	0	0	0	
2022	14	1	5	6	6	1	16	0	
2021			0						
2020									
計	18	1	8	6	8	1	19	0	
2024	3	0	1	1	7	0	7	0	
2023	1	0	1	0	1	0	1	0	
2022	14	1	6	0	8	0	7	0	
2021			1						
2020									
計	18	1	9	1	16	0	15	0	
2024	2			1			3		
2023	1								
2022							1		
2021									
2020									
計	3	0	0	1	0	0	4	0	
2024									
2023									
2022									
2021									
2020									
計	0	0	1	0	1	0	0	0	
学部別 計	62	3	28	11	33	3	60	0	

POINT 1 単位換算のルールを理解する

1 時間数に関する基本ルール

留学先の授業時間数	甲南の科目
30時間	2単位
60時間	4単位

留学先や所属学部・学環によってルールが異なるため、詳細は国際交流センターホームページで確認してください。
(大学別)単位換算一覧



2 帰国後に単位換算申請の上、修得できる甲南大学の科目は、外国語科目もしくは所属学部・学環の専門教育科目の2種類です。下表の通り、留学先で履修する科目により、異なります。

留学先の履修科目	語学科目		専門教育科目	
	留学制度の例: ●奨励留学 ●語学プラス交換留学の前半部分	この他にも、交換留学で語学科目を履修する場合等も含まれます。	留学制度の例: ●交換留学 ●語学プラス交換留学の後半部分	この他にも、奨励留学で専門教育科目を履修する場合等も含まれます。
甲南大学の単位換算先科目	外国語科目	専門教育科目(一部) 英語圏のみ	専門教育科目	外国語科目(一部) 原則第2外国語圏のみ
	換算先科目の例: ●外国留学科目 ●上級外国留学科目 ●English Regions III, IV (留学支援科目) など 2022年度以前の入学者および第2外国語圏への留学の場合は、留学先言語に準ずる中上級外国語科目	換算先科目の例: ●各学部・学環で定められた科目 ●文/English Studies I~VII、ワークショップI~III、英作文I~III等 ●経済/外国大学科目A~D (入学年度により異なる) ●経営/English Studies I~VII (文学部科目) ●マネジメント創造/English as a Second Language I~III等	換算先科目の例: ●留学先での科目に合致する科目 ^{*2} (学部・学環で個別に相談)または各学部・学環の定められた専門教育科目(左記参照) ^{*2} 留学先科目と甲南大学の科目の内容が合致する必要があるため、留学先で配付されたシラバス等を基に帰国後に審議されます。	換算先科目の例: ●中級外国語科目 ●上級外国語科目 など

POINT 2 留学後に修得できる単位数をシミュレーションする

過去の単位換算一部実績(参考/下表以外の留学先については、国際交流センターにお問合せください)

1 交換留学の場合: 留学先の履修可能科目数と授業時間数により、修得できる単位数が異なります。

(下表は1年留学の場合)

留学先	履修科目数 (ESL科目が含まれる場合有)	単位換算単位数 (過去実績)
アメリカ	イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校	8科目~ 文 18
	ニューヨーク州立大学 バッファロー校	8科目~ 文 21.8 営 8
	ウイバー州立大学	8科目~ 文 24, 20
	ピッツバーグ大学	8科目~ 文 20 マネ 19, 15
カナダ	ビクトリア大学	6~10科目 文 16, 11, 10 経済 14
	カールトン大学	6~10科目 文 22, 19
イギリス	リーズ大学	6~10科目 マネ 12, 11, 6

2 奨励留学の場合: 留学先の授業時間数と、所属学部・学環や個人の甲南大学での履修歴により、修得できる単位数が異なります。

留学先	授業週数 (授業総時間数) ^{*3}	単位換算単位数 (過去実績)
アメリカ	セントラルワシントン大学	18週 (380時間) 文 16, 25, 26
	イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校	15週 (300時間) 文 19, 20 営 24 マネ 20
	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	20週 (450時間) 文 21, 25, 28 営 12, 16, 24
カナダ	ビクトリア大学	12週 (260時間) 文 12, 13, 15, 16 経済 14, 16 法 16
		21週 (426時間) 文 27 経済 6 営 16
	ブリティッシュコロンビア大学	16週 (384時間) 文 24, 25 営 8, 26
		24週 (576時間) 文 24, 27, 29, 37 営 16 法 36
ヨーク大学	24週 (480時間) 文 31, 29	
イギリス	リーズ大学	20週 (420時間) 文 20 経済 22 営 24 法 12, 24

*3 プログラム内容の変更により、授業週数等が変更になる場合があります。

POINT 3 4年間の履修計画を立てる



留学開始までに修得する単位数などに応じた留学計画、卒業までの履修計画を立てましょう。

^{*1} 派遣学生の留学期間(半期/1年)によっては、人数が変動します。最新の募集枠については、募集公示にてご確認ください。
^{*2} 協定が終了しているか、現在は募集を行っていません。
^{*3} 人文科学研究科の大学院生を含む。
^{*4} 派遣留学を除く。

○甲南大学専任教員授業担当時間数等に関する規程

平成10年3月27日

理事会制定

改正 平成13年2月23日

平成16年3月26日

平成19年3月23日

平成25年5月24日

平成27年2月27日

令和2年2月28日

令和5年10月27日

第1条 この規程は、専任の教授、准教授、講師及び助教（以下「専任教員」という。）が本大学内において担当すべき授業の時間数に関する基準を定めるものとする。

第2条 専任教員の勤務時間は、授業、研究指導、研修、会議、教務その他の執務を合わせ、毎週40時間とする。

第3条 専任教員が担当すべき授業時間数の基準は、通年の計算として、1週につき次のとおりとし、傷病等やむを得ない事情により基準時間数を担当できない場合は、理事長に届け出て、承認を得なければならない。ただし、大学院担当科目及びジャパンスタディーズ担当科目は、除くものとする。

	教授		准教授		講師		助教	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
講義	10時間	8時間	8時間	6時間	8時間	6時間	6時間	2時間
演習								
講読								
外国書講読								
実験								
実習								
実技								

〔注〕

- (1) 専任教員は、講義のほか演習、講読、外国書講読、実験、実習又は実技を合わせ担当することを原則とする。
- (2) 実験、実習及び実技は、3時間をもつて2時間に換算する。

- (3) 部局長の職にある者及び部局長会議においてこれに準じて考慮する必要があると認められた職にある者については、表中の最高基準時間数から講義2時間を減じたものを最高基準時間とする。
- (4) 最高基準を超えて授業を担当することのできる時間数は4時間とし、最低基準未達の時間数の授業を担当することがないことを原則とする。
- (5) 専任教員が学外において授業を担当しようとするときは、学部教授会等の了承を得て、学長の承認を受けなければならない。なお、学外において授業を担当し得る時間数は、通年4時間を超えないことを原則とする。
- (6) 本大学における専任教員の授業担当時間数の合計が、表中の最高基準時間数を超えたときは、その超過時間に対して超過時間手当を支給する。ただし、注(4)に定められたところにより超過時間手当は4時間分を超えることはない。
- (7) ジャパンスタディーズ科目を担当した時間数については、本規程の定めにかかわらず超過時間手当を支給する。ただし、この場合の授業時間数は第3条に規定する授業時間数に加算しないものとする。
- (8) 超過時間手当は、別に定める。
- (9) 1学科目の聴講学生数が、350名を超えるときは、これを250名以下の組に分けて講義を行うことができる。この場合、授業担当時間数は、実働時間で計算される。また、専任教員が聴講学生350名以上に対して授業するときは、授業担当時間数は実働時間数の2分の3に計算する。
- (10) 削除

第4条 この規程の改廃は、部局長会議及び教授会の審議を経て、学長が提案し、理事会で行う。

附 則

- 1 この規程は、平成10年3月27日から施行する。
- 2 この規程の施行に伴い、甲南大学専任教員授業担当時間数等に関する内規（昭和32年4月11日合同教授会制定）は、廃止する。
- 3 本大学専任教員が、甲南高等学校及び甲南中学校の授業を兼担する場合には、その2時間の授業をもつて大学における講義1時間に換算し、この規程を適用する。

附 則

この規程は、平成13年2月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年11月1日から施行する。

○甲南大学専任教員定年規程

平成3年2月27日

理事会制定

改正 平成18年5月26日

平成19年3月23日

平成26年3月28日

第1条 この規程の適用を受ける者は、甲南大学専任の教員とする。

第2条 専任教員の定年は、教授、准教授及び講師にあつては満68歳、助教にあつては満60歳とする。

2 第3条により助教資格で定年退職した者のうち継続雇用希望者については、次の各号のいずれかに該当する者を除き1年毎に雇用契約を締結のうえ、満65歳に達した日の属する学年度の末日まで雇用することができる。なお、この場合の給与等待遇については、その都度定める。

(1) 甲南学園就業規則第14条第1項に該当する者

(2) 甲南学園就業規則第39条に該当し、懲戒解雇に処することが相当と認められる者

第3条 専任教員は、定年に達した日の属する学年度の末日に退職するものとする。

第4条 本人の希望により、教授、准教授及び講師にあつては満63歳、助教にあつては満55歳以降退職するときは、退職給与金支給規程の適用について、定年退職者と同等の資格があるものとみなす。

附 則

1 この規程は、平成3年2月27日から施行する。

2 この規程の制定に伴い、甲南大学専任教員定年規程（昭和32年12月19日大学会議制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成18年6月1日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

○甲南大学理工学部特命教授規程

令和6年9月27日

理事会制定

(目的)

第1条 この規程は、甲南大学理工学部特命教授の任用及び職務に関する事項等について定めることを目的とする。

(定義)

第2条 甲南大学理工学部特命教授（以下「特命教授」という。）とは、理工学部環境・エネルギー工学科の設置にあたり、定年退職後、完成年度にいたる期間、当該学科の完成及び教育の高度化を目指す上で特に必要と認め、引き続き任用するものをいう。

(職務)

第3条 特命教授は、理工学部環境・エネルギー工学科及び自然科学研究科環境・エネルギー工学専攻の授業、研究指導、運営、カリキュラム編成、研究活動その他の職務を担当する。

(手続)

第4条 特命教授の任用手続については、甲南大学理工学部教員人事手続規程を準用する。

(退職年齢)

第5条 特命教授は、理工学部環境・エネルギー工学科の完成年度の年度末に退職する。

(待遇等)

第6条 特命教授の待遇等については、別に定める。

(教育・研究条件)

第7条 特命教授の教育・研究条件は、別に定める。

(規程の準用)

第8条 特命教授の就業に関する事項等については、この規程に定めるもののほか甲南学園就業規則その他関連規程を準用する。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、大学会議の議を経て、理事会が行う。

附 則

- 1 この規程は、令和11年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、令和12年3月31日をもって廃止する。

キャリア創生共通科目の概要

キャリア創生共通科目には、社会で必要とされる多様な実践的応用能力、例えば、法律・会計・財務・マネジメントに関する実務知識や、ITリテラシー、英語で学ぶビジネスなど、多種多様な科目が設けられている。

これらの科目を専門教育科目と並行して学ぶことにより、社会で活躍するための有用な能力を手に入れることができる。また、これらの科目をうまく組合わせて履修することにより、将来の資格取得に役立てることもできるようになっている。

キャリア創生共通科目は、社会で活躍するフィールドを広げる、すなわちキャリアの広がりを作り出していくことを目的とした、大学と社会をつなぐ科目である。

したがって、教員も実社会において豊富な経験を積んだ実務家が担当するなど、実践的な教育を行う科目も多数含まれる。

I. 生涯を通じた就業力を培う科目群

一人ひとりの学生が自分自身を深く見つめ、目的意識をもって学修を継続し、深化させ、生涯を通じた就業力を培い、豊かな人生設計を行うことができるようになることを目標としている。

演習

【全学部・学環対象科目】

授業科目	つながる力
共通応用演習Ⅰ 共通応用演習Ⅱ	これまでに身に付けた知識や経験や能力を応用的・実践的なものへとブラッシュアップし、社会人へとつながる生活のスタンスを形成し、自らのキャリア創生に対する認識を醸成する力

【理工学部物理学科 文理融合コース・フロンティアサイエンス学部生命化学科 学際科学コース対象科目】

授業科目	つながる力
文理融合総合研究	自然科学の基礎教養を生かし人文・社会科学系の分野で活躍できる力

キャリアデザイン系

授業科目	つながる力
ベーシック・キャリアデザイン	学部・学環での学びと進路や就職とのつながりについて考えるための力
キャリア実習	就労体験により、社会で求められる知識や能力を認識し、職業観・就業意識を培う力
キャリアゼミ	様々な仕事や働き方について理解するとともに、職業観や人生観を深めるための力
プラクティカル・キャリアデザインⅠ プラクティカル・キャリアデザインⅡ	インターンシップ・就職活動を中心に将来の進路の描き方を実践的に学ぶための力
アドバンスト・キャリアデザイン	社会人として求められる基本的な意識、知識、関係構築、行動について習得するための力

II. 働くための力を磨く科目群

社会に出て働き、賃金を得て、生活をしていくためには、様々な知識や能力が求められる。

例えば、企業が儲かっているのか損をしているのかを会計の情報（決算書）から読解くことや、経営者・出資者・取引先・従業員といった、企業の活動にかかわる人々の間での争いを予防するための法律知識などは、社会で活動するうえで不可欠な力である。

また、当たり前のようにパソコンやタブレットを使う情報社会において、企画や計画を進めていくうえで必要な統計結果を分かりやすくまとめる方法など、社会で生かせる基礎的能力を学ぶ。

ビジネス系 21世紀型高度ビジネス人材を目指して

商品を売る側と買う側から、またサービスを求める側と提供する側から、儲けとお金について知る。

授業科目	つながる力・資格
入門マネジメント 実践マネジメント	ビジネスやマネジメントの意義を理解する力
入門ビジネス会計 実践ビジネス会計	ビジネス会計検定
入門パーソナルファイナンス 応用パーソナルファイナンス	ファイナンシャルプランナー
入門商業簿記Ⅰ 入門商業簿記Ⅱ	日商簿記検定3級
中級簿記 工業簿記	日商簿記検定2級
上級簿記Ⅰ 上級簿記Ⅱ 上級財務諸表論Ⅰ	日商簿記検定1級 → 税理士試験・公認会計士試験
上級財務諸表論Ⅱ	ビジネス会計検定 → 公認会計士試験
上級工業簿記 上級原価計算	日商簿記検定1級 → 公認会計士試験
起業・アントレプレナーシップを学ぶ	困難な変化に対し、自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく力

政策・法務系 企業や官公庁で働くための実践的な学び

企業や官公庁で働くため、また公務員試験や資格取得に向けて、必要となる政策や法務に関する知識を学ぶ。

授業科目	つながる力・資格
ビジネスを支える法の世界 入門ビジネス法務 実践ビジネス法務	ビジネス関連の法務を理解する力
入門商法 会社法編 証券市場と法 金融取引と法 証券業と法	企業活動の基本となる商法に関する基礎と実践を理解する力

授 業 科 目	つながる力・資格
入門民法 財産法編Ⅰ 入門民法 財産法編Ⅱ 実践民法Ⅰ 実践民法Ⅱ 実践民法Ⅲ 実践民法Ⅳ 実践民法Ⅴ 実践民法Ⅵ	社会の様々な分野に関連する民法に関する基礎と実践を理解する力 公務員試験：地方公務員（上級）、国家公務員Ⅱ種など 資格取得：宅地建物取引士、行政書士など 建築・不動産関係、銀行・金融機関などの業務 ※科目の対応については下記【補足説明】を参照
公共政策論Ⅰ 公共政策論Ⅱ	社会の仕組みと課題解決のための政策立案を理解し、実践に結びつける力 地方公務員、国家公務員
知的財産とイノベーションⅠ 知的財産とイノベーションⅡ	文系・理系を問わず各自の専門性や必要性に適合した知的財産に関する知識やその利活用スキルを社会の発展に役立つように駆使できる力

【補足説明】民法は社会生活を基礎付ける幅広い領域をもつため、8科目を設けている。民法の基礎から重要な論点まで体系的に学ぶことができるが、学びたい分野を選択して学ぶこともできる。そこで民法の8科目について、公務員試験や資格取得など履修者の目的に応じて重要と考えられるものを例示すると、次のとおりである。

- 地方公務員（上級）を目指す場合
入門民法 財産法編Ⅰ・Ⅱのほか、実践民法Ⅰを必修分野とし、その他にも広く学ぶことが望ましい。
- 宅地建物取引士や建築・不動産関係の仕事を目指す場合
入門民法 財産法編Ⅰ・Ⅱのほか、実践民法Ⅰ～Ⅳが関連し、とくに実践民法Ⅰ・Ⅳが重要分野である。
- 行政書士、国家公務員Ⅱ種（民法を選択する場合）を目指す場合
民法に関して幅広く体系的に学んでおくことが必要である。入門民法 財産法編Ⅰ・Ⅱ、実践民法Ⅰ～Ⅵを計画的に学ぶことを勧める。
- 銀行・金融機関などを目指す場合
入門民法 財産法編Ⅰ・Ⅱのほか、実践民法Ⅱ・Ⅲが重要な分野である。

情報系 社会で求められる基礎的能力の習得

パソコンやタブレットを活用し、ビジネス界で活躍するための基礎的能力を育成する。

授 業 科 目	つながる力・資格
I T応用	ウェブデザイン技能検定3級 Web デザイナー検定
情報通信テクノロジーⅠ 情報通信テクノロジーⅡ	I Tパスポート
基本情報技術 ICT セキュリティ	基本情報技術者試験 情報セキュリティマネジメント試験
統計基礎	統計検定4級
データサイエンス基礎 統計活用情報分析Ⅰ 統計活用情報分析Ⅱ	データサイエンスの基礎能力

Ⅲ. 活躍する世界を広げる科目群

大学を卒業後、社会人として活躍する舞台は職場だけではない。地域社会の取組みや被災地支援、あるいは健康な社会をつくる活動への参加など、社会に貢献する機会はたくさんある。また、グローバル化がますます進展し、仕事でもプライベートでも海外で活躍・活動する機会が増えることであろう。このような環境のなかで、様々なシチュエーションで力を発揮することが求められるようになる。

卒業後の活躍の場を広げるためには、机に向かうだけでなく、街に、フィールドに、世界に飛び出し学ぶことが大切である。人生を豊かなものにするためにも、自らの世界を広げる力を身に付けることが必要である。

国際系 世界に通用するグローバル人材の育成

語学運用力を身に付け、日本と世界を理解し、異文化の中でも活用できる力を身に付ける。

授 業 科 目	つながる力・資格
グローバル・コミュニケーションⅠ	英語でコミュニケーションする力
グローバル・コミュニケーションⅡ	英語によるビジネスコミュニケーション力 TOEIC
エリアスタディーズⅠ～Ⅹ	異文化理解
世界の中の日本Ⅰ	日本についての理解
世界の中の日本Ⅱ	国際関係と国際問題を考える力
海外ボランティアⅠ	人々の交流や地域への貢献を通じて、国際理解を深め、行動する力
海外ボランティアⅡ	
海外キャリア実習	語学力、コミュニケーション力、協調性

ボランティア・地域連携系 社会で活躍する場を広げる

被災地支援や街のイベントなど、地域で活動するための基本的な知識や課題の解決方法を身に付ける。

授 業 科 目	つながる力
実践ボランティアⅠ 実践ボランティアⅡ 地域ファシリテイト 地域プロジェクトⅠ 地域プロジェクトⅡ	地域の課題を解決するため、関係する人々と協力しながら考え、行動するための力、コーディネートする力

福祉・スポーツ健康科学系 福祉・スポーツを通じた地域・社会貢献

高齢者福祉や障がい者(児)福祉、社会的養護に必要な心理学の知識を身に付け、地域における福祉活動を支える力を身に付けるとともに、スポーツ指導・運営に関する実践力を高め、地域におけるスポーツ活動を支える力を身に付ける。

授 業 科 目	資格
応用スポーツ健康科学	日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー資格
障害者・障害児心理学	公認心理師資格
福祉心理学	公認心理師資格

キャリア創生共通科目

キャリア創生共通科目 授業科目表

〔2024年度（令和6年度）以降の入学生に適用〕

授業科目		単位	配当年次	備考	授業科目		単位	配当年次	備考
演習	共通応用演習Ⅰ	2	3	※1	情報系	IT応用	2	1	
	共通応用演習Ⅱ	2	3			情報通信テクノロジーⅠ	2	1	
	文理融合総合研究	8	4			情報通信テクノロジーⅡ	2	1	
キャリアデザイン系	ベーシック・キャリアデザイン	2	1	ICTセキュリティ		2	2		
	キャリア実習	2	1	基本情報技術		2	3		
	キャリアゼミ	2	2	統計基礎		2	1		
	プラクティカル・キャリアデザインⅠ	2	2	データサイエンス基礎		2	2		
	プラクティカル・キャリアデザインⅡ	2	3	統計活用情報分析Ⅰ		2	2		
	アドバンスト・キャリアデザイン	2	4	統計活用情報分析Ⅱ		2	2		
ビジネス系	入門マネジメント	2	2	国際系		グローバル・コミュニケーションⅠ	4	2	
	実践マネジメント	2	2		グローバル・コミュニケーションⅡ	4	2		
	入門パーソナルファイナンス	2	2		エリアスタディーズⅠ	2	1		
	応用パーソナルファイナンス	2	2		エリアスタディーズⅡ	2	1		
	入門ビジネス会計	2	2		エリアスタディーズⅢ	2	1		
	実践ビジネス会計	2	2		エリアスタディーズⅣ	2	1		
	入門商業簿記Ⅰ	2	2		エリアスタディーズⅤ	2	1		
	入門商業簿記Ⅱ	2	2		エリアスタディーズⅥ	2	1		
	中級簿記	4	2		エリアスタディーズⅦ	2	1		
	工業簿記	4	2		エリアスタディーズⅧ	2	1		
	上級簿記Ⅰ	2	2	エリアスタディーズⅨ	2	1			
	上級簿記Ⅱ	2	2	エリアスタディーズⅩ	2	1			
	上級財務諸表論Ⅰ	2	2	世界の中の日本Ⅰ	2	2			
	上級財務諸表論Ⅱ	2	2	世界の中の日本Ⅱ	2	2			
上級工業簿記	2	2	海外ボランティアⅠ	4	1				
上級原価計算	2	2	海外ボランティアⅡ	2	1				
起業・アントレプレナーシップを学ぶ	2	2	海外キャリア実習	4	2				
政策・法務系	ビジネスを支える法の世界	2	3	ボランティア・地域連携系	実践ボランティアⅠ	1	1		
	入門ビジネス法務	2	2		実践ボランティアⅡ	1	1		
	実践ビジネス法務	2	2		地域ファシリテイト	2	2		
	入門民法財産法編Ⅰ	2	2		地域プロジェクトⅠ	2	1		
	入門民法財産法編Ⅱ	2	2		地域プロジェクトⅡ	2	1		
	実践民法Ⅰ	2	3		福祉・スポーツ健康科学系	応用スポーツ健康科学	2		2
	実践民法Ⅱ	2	3			障害者・障害児心理学	2		3・4
	実践民法Ⅲ	2	3			福祉心理学	2		2
	実践民法Ⅳ	2	3						
	実践民法Ⅴ	2	3						
	実践民法Ⅵ	2	3						
	入門商法会社法編	2	2						
	証券市場と法	2	3						
	証券取引と法	2	3						
証券業と法	2	3							
公共政策論Ⅰ	2	2							
公共政策論Ⅱ	2	2							
知的財産とイノベーションⅠ	2	2							
知的財産とイノベーションⅡ	2	2							

※1 理工学部物理学科文理融合コースおよびフロンティアサイエンス学部生命化学科学際科学コース対象科目。

科目履修上の諸注意

1. キャリア創生共通科目の配当年次および修得単位の取扱いは、入学年度や学部・学科および学環によって異なるので、必ず、所属する学部・学科および学環のページを参照すること。
2. 下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。
「日商簿記検定2級合格者と同等のレベル」を有する者は、『履修ガイドブック』の指示に従って手続きを行うこと。

授 業 科 目	履 修 条 件
上 級 簿 記 I	「中級簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。 経営学部ビジネス・リーダー養成プログラムAPコース所属学生については、原則として「APアカウンティング・プラクティス I」および「APアカウンティング・プラクティス演習 I」の単位を修得済みであること。
上 級 簿 記 II	「中級簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。 経営学部ビジネス・リーダー養成プログラムAPコース所属学生については、原則として「APアカウンティング・プラクティス I」および「APアカウンティング・プラクティス演習 I」の単位を修得済みであること。
上 級 財 務 諸 表 論 I	「中級簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。 経営学部ビジネス・リーダー養成プログラムAPコース所属学生については、原則として「APアカウンティング・プラクティス I」および「APアカウンティング・プラクティス演習 I」の単位を修得済みであること。
上 級 財 務 諸 表 論 II	「中級簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。 経営学部ビジネス・リーダー養成プログラムAPコース所属学生については、原則として「APアカウンティング・プラクティス I」および「APアカウンティング・プラクティス演習 I」の単位を修得済みであること。
上 級 工 業 簿 記	「工業簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。 経営学部ビジネス・リーダー養成プログラムAPコース所属学生については、原則として「APアカウンティング・プラクティス II」および「APアカウンティング・プラクティス演習 II」の単位を修得済みであること。
上 級 原 価 計 算	「工業簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。 経営学部ビジネス・リーダー養成プログラムAPコース所属学生については、原則として「APアカウンティング・プラクティス II」および「APアカウンティング・プラクティス演習 II」の単位を修得済みであること。
情報通信テクノロジーII	「情報通信テクノロジー I」の単位を修得済みであること。
応用スポーツ健康科学	基礎共通科目「基礎スポーツ健康科学」の単位を修得済みであること。
地域プロジェクトII	「地域プロジェクト I」の単位を修得済みであること。
実践ボランティアII	「実践ボランティア I」の単位を修得済み、または、本科目と同時に履修すること。

キャリア支援プログラム

2024年度

1年次	自己発見（なりたい自分を探す）	4年間の学習計画と将来への目標設定
	会社見学ツアー U・I・Jターン就職相談会 キャリアアップ（資格）講座 公務員合格者との懇談会	インターンシップ・キャリア実習事前研修・事後研修 理系学生のためのキャリア支援講座 低年次向けキャリアガイダンス OB・OG懇談会
2年次	進路選択（自分を高める）	進路実現に向けての知識・能力を取得
	会社見学ツアー U・I・Jターン就職相談会 キャリアアップ（資格）講座 公務員合格者との懇談会 企業訪問ツアー in TOKYO	インターンシップ・キャリア実習事前研修・事後研修 理系学生のためのキャリア支援講座 低年次向けキャリアガイダンス OB・OG懇談会
3年次	進路活動準備（自ら動く）	自分にあった進路を選択
	キャリアガイダンス インターンシップ・キャリア実習選考対策セミナー 志望動機作成ワークショップ 面接対策講座 グループ面接実践会 業界研究講座 企業研究セミナー OB・OG懇談会 理系学生のためのキャリア支援講座 U・I・Jターン就職相談会 公務員業務研究セミナー	公務員合格者との懇談会 インターンシップ・キャリア実習事前研修・事後研修 筆記試験対策講座、模擬試験 自己PR作成ワークショップ グループディスカッション対策講座 業界・仕事理解セミナー 体育会支援講座 公務員試験対策講座 キャリアアップ（資格）講座 国家資格を持つ方との懇談会 履歴書・エントリーシート添削
4年次	進路決定（社会へ漕ぎ出す）	自己実現への具体的な活動
	エントリーシート・履歴書添削 模擬面接 学内合同企業説明会 ハローワークによる相談会	個別相談 個別就職相談会 キャリアアップ（資格）講座